教育の実際化に就いて	社会と教化	三―〇三	大12・3			*
職業指導上より観たる教育の実際化	社会と教化	三―〇四	大12・4		*	
青年団の新傾向	青年	八―五	大12・5			
徳性涵養と社会教育	社会と教化	三―〇五	大12・5		*	
我国に於ける民衆娯楽大観	社会と教化	三―〇六	大12・6			
趣味の教育と娯楽の教養	社会と教化	三―〇六	大12・6	*		
公民教育と作業	補習教育	七	大12・7	*		
能率増進と教育の改造	社会と教化	三―〇七	大12・7	*		
教育画報に序す	教育画報	一七―一	大12・10			
災害の復興は精神の作興より	青年	八―一一	大12・11			
年頭所感	教育時論	一三八九	大13・1		*	
年頭所感	社会教育	一―一	大13・1			
復興に対する一考察	社会教育	一―一	大13・1		*	
焦土の帝都に咲いた教育の花	社会教育	一―一	大13・1			
野外国少民学校						
貧困児童就学奨励資金御下賜について	社会教育	一―二	大13・4			
義務教育の延長と社会教育	社会教育	一―二	大13・4	*		
青年と政治	社会教育	一―三	大13・5	*		
青年団訓練革新の要諦	青年	九―六	大13・6			
家庭教育者としての婦人の使命	社会教育	一―四	大13・6	*		
職業教育と学校教育	小学校	臨増	大13・8			
椅子を離るるに臨んで	社会教育	一―五	大13・8	*		
教育の更始一新	農業教育	二八四	大14・4	*		
老年と青年	社会教育	二―四	大14・4	*		
補習教育の振興に就いて	補習教育	三五	大15・1	*		
振え社会教育	社会教育	三―一	大15・1	*		
小学教育に宗教教育を加うべし	教育時論	一四九六	昭2・1	*		
斯る主義で行われる人物試験	中学世界	八一―一	昭3・1			
音楽と教育	社会教育	五―六	昭3・6	*		
社会教育の往時を回想して	社会教育	六―七	昭4・7	*		
現代生活と音楽	教育研究	三五二	昭5・1			*
青年の教育と音楽	補習教育	八三	昭5・1			
巻頭辞（『遺文集』所収）	音楽（学友会）	一〇	昭5・3			
実業補習教育実行録に寄せられたる指導先輩者の激励寸鉄	補習教育	九五	昭6・1			
巻頭辞	音楽（学友会）	一二	昭6・3			
絵本唱歌の編纂について	幼児教育	三二―二	昭7・2	*		
此の場合の反省	児童教育	二六―三	昭7・3	*		
非常時の社会教育に就いて	青年教育	一一七	昭7・11	*		
音楽教育に対する所感	教育研究	四一二	昭8・12			
躍進日本	音楽（学友会）	一五	昭10・3			
銃後に於ける我等の覚悟	音楽（学友会）	一八	昭12・10			
青年学校に於ける音楽科新設と吾等の任務	青年教育	一五五	昭11・1			
情操教育としての幼児音楽について	保育	二七	昭14・1			

（注）掲載雑誌名の記載のないものについては、各本文に付記された年・月を採用した。

（四）田中耕太郎（たなか こうたろう）

在職期間　昭和二十年十月～二十一年一月。

法学者。明治二十三年十月二十五日、裁判官であった父の任地鹿児島で生まれる。大正四年東京帝国大学法学部卒。明治神宮造営局および内務省に勤務の後、大正六年東大助教授、十二年教授、商法担当。昭和十二年～十四年法学部長。戦時中自由主義者として軍部の攻撃を受けた。昭和二十年十月より文部省学校教育局長を兼任、また教職員適格審査委員として教職追放の実行に当たる。二十一年第一次吉田内閣文相となるが首相と対立して八カ月で辞任。同年貴族員勅選議員、二十二年参議院全国区当選、緑風会に属す。二十五年～三十五年最高裁長官、三十五年四十四年国際司法裁判所判事。三十五年文化勲章受章。昭和四十九年三

月一日没。

『手形法』『世界法の理論』『会社法概論』『法哲学』『法律学概論』『法と道徳』『法と宗教と社会生活』『共産主義と世界観』『現代生活の論理』『ブラジルからメキシコへ』等著書多数（以上『朝日人物事典』『新潮日本人名事典』による）。

田中の校長事務取扱は三カ月余と短期間であり、学内に彼の足跡を記す文章は少ないが、同声会事務局にこの間の記録がわずかに残されている。同声会の記録ではあるが学校全体の動静が記されているので、この時期のすべてを転載しておく。

昭和二十年十月十五日（月）　乗杉學校長依願免本官　田中耕太郎文部省學校教育局長學校長事務取扱ヲ命セラル　朝霞米進駐軍ニ慰問演奏

〃　十月二十六日（金）　午後田中校長初登校　職員ヘ挨拶　生徒ヘ訓示　後職員ト懇談

〃　十月二十七日（土）　演奏ノタメ寄宿女生徒富士ヘ

〃　十月二十八日（日）　富士凸版工場ニ於テ演奏會ヲ催す　同日歸京

〃　十月二十九日（月）　教官有志懇談會開カル

〃　十一月二日（金）　田中校長登校

〃　十一月三日（土）　午前十時ヨリ明治節拜賀式擧行、教官實行委員學校長ト懇談。午後梶原完獨奏會。

〃　十一月五日（月）　教官有志第二回懇談會

〃　十一月六日（火）　午後一時ヨリ第五高女創立記念日ノタメ本校ニ於テ演奏會開カル

〃　十一月二十三日　米第一騎兵師團バンド來校演奏

〃　十二月十七日　冬期休暇開始（一月末マデ）

〃　十二月二十一日　教官懇談會

昭和二十一年一月二十六日（土）　東北帝國大學教授小宮豐隆先生本校校長ニ兼任セラレ文部省學校教育局長田中耕太郎先生本校校長事務取扱ヲ免セラル

昭和二十一年一月二十七日（日）　午後一時ヨリ小宮學校長ノ職員ニ對スル御挨拶及田中局長ノ離任御挨拶アリ　尚二十八日小宮校長仙臺ヘ行カル

〔手書き〕

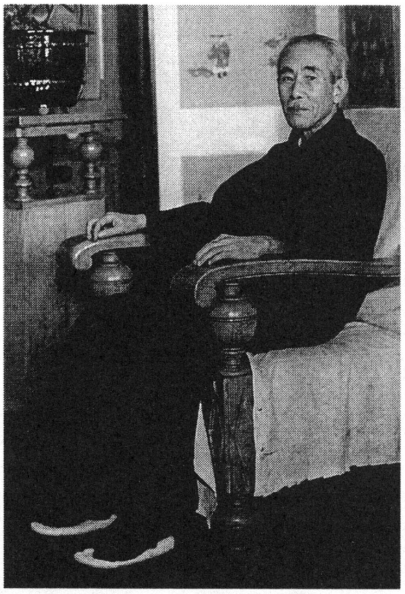
（『昭和二十年　二十一年　日誌抄』）

私の履歴中のピカ一は、三カ月間の音楽学校々長事務取扱の兼任である。これは音楽の専門家を校長に選びたい、という念頭に出たものである。しかし、白羽の矢をたてた信時潔氏は引き受けなかった。その間、教授会を主宰し、音楽家と知り合いになった。

（田中耕太郎『私の履歴書』東京　春秋社　昭和三十六年　七五頁）

（五）　小宮豐隆（こみや　とよたか）

府県族籍　福岡県。



小宮豐隆